

## 事務局から

## 編集後記

▼本号にご寄稿いただいた土肥校長の都立三鷹高校の保護者である八木絹さんのお力添えて、「土肥先生を応援する保護者と市民の会」のサイトに、今号の『にいがたの教育情報』を紹介させていただきました。

これには9月27日、開催された「都教委の実態を語る！」集会時のパネラー方々の（藤田英典さん、尾木直樹さんら）の発言も掲載されています。是非ご覧下さい。

(<http://blog.snn.ne.jp/sunharuhhi/>)

▼先日、長岡市立図書館から本誌「創刊号から最新号」までの注文を受けました。本誌はさらに公共性が求められます。

▼保育分野でも市場原理を導入する新自由主義改革によって公的保育制度が崩されようとしています。保育現場では、「子どもの育ちそびれ」、一親と子どもとの愛着関係、保育士の深刻な労働実態などさまざまな悩みや問題を抱えています。

次号は「就学前の子どものいま」（仮題）を特集し、豊かな人間の土台を培う子どもへの保育のあり方を就学前の子どもの発達に即して考えてみます。（内山）

▼新潟の公立高校再編は驚くようなスピードです。県教委の調査によれば生徒の学校での満足度は上がっています。大学進学率も向上しています。ところが現場では再編に戸惑いが見られています。この乖離のもつ意味を探ることが今回の特集の問題意識です。大田論文では全国的にすすめられている高校再編の背後に「選択と競争」という新自由主義の改革の論理があり、民主主義を願う側がそれに対置するキーワードは「参加と共同」であると指摘されています。それは学校を子ども、父母、教職員、地域が一体となった取り組みのなかで、地域の学校としてとらえ直すことであり、「教育における住民自治」を創造する歴史的課題だと提起されています。

▼村上中等教育一貫校がこの春、初めての卒業生を出しました。この機会に学校を訪ね校長先生からお話を伺い、教育課程表等の資料を掲載しました。中等教育学校について改めて考えてみたいと思います。

▼教育の場に言論の自由を求めて、勇気あ

る発言をされている都立三鷹高校の土肥先生から原稿をいただきました。教育が自由を前提にして成り立つことは言うも疎かなことですが、支援の輪が確実に広がっているのは心強い限りです。

▼今回は海外の教育事情を伝える原稿が三本も揃えました。なかでも菊崎さんの「南京木屑（一）」は今回から数度の連載を予定しています。中国の教育事情を知るよい機会になりそうです。ご期待下さい。（大滝）

## にいがたの教育情報 No. 96

2008年12月10日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。